



ドクター板東の メデイカルリサーチ Vol.120

～白球に 生涯かける 幸せが～

<http://pianomed-mr.jp/>

先日、プロ野球で素晴らしいニュースがあった。ヒーローは中日ドラゴンズの山本昌投手。今季限りで現役を引退したのだが、ペナントの最終試合で先発投手を務めた。長年ピッチャーを続け、50歳1カ月の登板は日本最年長記録だ。

彼は1983年にドラゴンズに入団して32年にわたり活躍。多数の最年長記録を打ち立てた。それでも負担が大きい投手をこれほど長く務めたとは、何とも素晴らしい！

現代はアンチエイジングの時代である。今回は山本選手および野球に纏わる話題について触れてみたいと思う。

なぜ50歳まで

山本選手はなぜ、これほど長い期間、超一流のレベルで投げ続けられたのだろうか？ 畏敬の念を持ち、リサーチ・推測してみた。まず彼自身による規則的な生活習慣や、きちんとした自己管理が基盤にあると考えられる。



図1

次に、彼自身のヒストリーを調べてみた。すると、若い時代に、米国のドジャーズに留学して学んだ経験がポイントと考えられる。当時なかなか芽が出なかったが、米国マイナーリーグの自由な雰囲気、彼を助け鼓舞し続けた。

つまり、スクリューボールを学び自在に使えるようになり、彼の「生命線」となることに。徐々に米国でも実績を上げ、帰国後から勝ち星を積み重ねた。

氏の著書「山本昌という生き方」で感銘を受けた言



図2



図3

四医大野球OB戦

四国四医大準硬式野球部OB戦が毎年あり、今年は徳島担当で、あじさい球場で開催された(図3・4)。概要は①土曜日の午前と午後計4試合、②3位決定戦も実施、4チームの順位を決定、③夜は懇親会、④日曜日は四大学対抗ゴルフコンペとなる

今年は何とも珍しいことが起こった。というのは、

- ・第1試合(香川vs徳島)
- ・第2試合(愛媛vs高知)
- ・第3試合(香川vs高知)

のすべてが7イニング終了時に同点。いずれも9人の

葉を要約する(図1)。「今の若い選手の弱点は、効率のよい練習方法しからず、無駄がないこと。効率的な練習は必要だが、効率だけを追い求めると落とし穴にはまることも。無駄なこと重要だ」と。

このように、旧世代と新世代の利点弱点を知り、自身をハイブリッド車と呼ぶ。今の若者のほうが優れると素直に発言できる柔軟さ、謙虚さ、素朴な感性、継続できる能力と意思など、私たちはレジェンド・山本氏から多くを学ぶことができる(図2)。



図4



図5



図6

ジャンケンで勝敗が決まったことである。

こんな稀なことがあるとは!? 今年放映されたNHKの連ドラ「希」と関係があるのかも。決勝戦は愛媛VS徳島となったが、主管の徳島は常に控えめで、優勝を愛媛に譲ることとなった。

徳島大学のOBは20人が集まり(図5)、打順は最高齢の私が1番、最も若い後輩の打席は20番と、これもまた稀なことだ。

夜の懇親会では、例年よりも楽しく盛り上がった。

私の野球人生

常勝チームの香川医大からのコメントが面白い。

「二度も負けたことがないのに、今年は何とも不思議な稀な大会となった」と。

私は子供の頃から野球が大好きで、小学校からソフトボールではピッチャーを担当。大学時代は準硬式野球部で二塁手に。漫画ドカベンに登場する名手「殿馬」を目指し、秘打「白鳥の湖」などをいろいろと研究していた。私の特徴は非力だが器用なことだ。



図7

あるとき先輩がヒットを連発し「かため打ちだ」と絶叫したことが。そうか、私も真似しようと片目打ちをしてみたが、なぜかすべて空振り。後にヒットの連続が固め打ちと判った。

打つのは子供の頃から通常の右だった。走るのが速かった。左打席で打ちたいと先輩に相談。すると、「右でもまともに打てない奴が、何を馬鹿なことを言っているんだ」と。私の夢は砕け散った。

しかし、それから10年後、30歳から左打席で打ち始めることに。コツコツと練習を重ね、段々滑らかな動



図8

きになってきた。右より左打席が1・5・2歩速いため、内野安打が多い。

図6は、当日左打席でセンター前ヒットを打った連続写真。イチロー選手とよく似ていないだろうか?

学生するとき私の背番号は7番。かつて巨人軍の柴田勲選手と同じ。氏は入団後、投手から野手に転向し左打ちに取り組みスウィッチヒッターに。氏と私の共通点を追い求め、弾丸の如く走るため、007と拳銃の特別仕様だ(図7)。

確実に歩む

ちょうど、首位打者でスウィッチヒッターの金城龍彦選手(横浜→巨人)が引退とのニュースも。今年はトリプルスリー(打率3割・30本塁打・30盗塁)の達成者が2人と、歴史的な快挙だ。今後、走攻守で走力も注目されるだろう。

今回は野球に対して冗談が過ぎることも多々あるが、お許し頂きたい。私が尊敬するのが、WBCでも活躍された宮本慎也氏である。

野球は人生のようなものと言われるが、著書「歩」には示唆に富む哲学が鏤められている(図8)。

最新のニュースによると、セ・パ各チームで40代の監督が多く誕生した。我が国のプロ野球のスピリットが、レジェンド山本氏や宮本氏から新世代監督に受け継がれていく。これからの展開に期待したい。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)